

目をこらして (5)



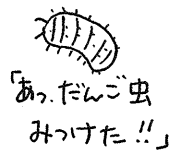
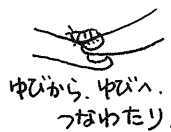
のんびりした日曜日。昼食はシートを広げて外で食べることにした。運河を渡る風が心地よい。

昼食の後、草むらにしゃがみ込んで何かを捜していた娘たちが、うれしそうに戻ってきた。「ほら」そういつて開いた娘の手のひらにダンゴムシ一匹。チョコチョコと動いて手のひらからおりる。

「動くの早いなだね」娘のかずほと友達のあさこちゃん
は、ジーツとダンゴムシに見入っている。そのダンゴムシ
は、チョコチョコ動くばかりで、なかなか丸くならない。
指や棒でチョコとやっても丸くならない。

「おかしいねえ、ダンゴムシは丸くなるからダンゴムシつ
て言うんじゃないの?」「これは、丸くならないダンゴム
シなのかなあ」と話していると、「え、どうしたの?」と
父親が会話を割り込んできた。彼は、ダンゴムシに何故か
とても詳しい。そんな彼が「さて、ダンゴムシの足は何本
でしょう」と娘たちに問題を出した。

チョコチョコ動いているダンゴムシの足は、小さくて
いっぱいあってとても数えようがない。「わかんないよー」



にぎった手を、パッとひらいて「ほらまたまたたんご虫」

絵と文 宮里暁美 (目黒区立ぶどう幼稚園)



耳をすまして

と言うと、ほらこうしたら数えられるよ、と親切にダンゴムシをお向けにしてくれた。

「四本!」「八本!」とはじめのうちは当てずっぽうに
いつていたのがだんだん真剣に数え始めた。

風に木がそよぐ音がする。

遠くで鳥が鳴く声がある。

スズメが首をかしげながらこちらを見ている。

娘たちは、ダンゴムシの足を数えている。

あと少し、というところでダンゴムシが向きを変えて歩
き出す。

「待って、待って」「じっとしててね」そんな気持ちを通
じたのか、今度こそダンゴムシはおとなしくしてしてくれ
た。そうして、ダンゴムシの足が何本あるのが分かった。
ダンゴムシは、もういいでしょ、とでもいうようににさつ
さと歩いていった。

目をこらす。もつともつと目をこらす。

その原動力は、何故かな?どうなってる?大好き!とい
う気持ちなんだねと思った。

